

「日本薬学教育学会」設立準備シンポジウム 薬学教育学のスタートアップ



日時：

2015 年 11 月

6 日（金）9:20 ～ 17:45

7 日（土）9:00 ～ 17:30

会場：

6 日（金）摂南大学薬学部

7 日（土）京都薬科大学

主催：

全国薬科大学長・薬学部長会議

「日本薬学教育学会」設立準備委員会

共催：

薬学教育懇話会

プ ロ グ ラ ム

第 1 日 会場：摂南大学薬学部

Workshop「Team-based Learning で TBL を学ぶ」

公開授業 TBL 見学セッション（定員制）

Workshop Team-based Learning で TBL を学ぶ

講 演 TBL とはどのような教育手法か
安原 智久（摂南大学 薬学部）

第 2 日 会場：京都薬科大学

シンポジウム・Workshop「薬学教育学をはじめる」

基調講演 薬学教育学の確立を目指して
中村 明弘（昭和大学 薬学部）

Workshop 教育・臨床研究を志向したアンケート作成・多変量解析
松野 純男（近畿大学 薬学部）

講 演 質的分析入門：患者・当事者の声と向かい合う研究へー
内容分析とグラウンデッド・セオリー・アプローチ
落合 亮太（横浜市立大学 医学部 看護学科）



参 加 申 し 込 み （事前登録締切：2015 年 10 月 20 日・授業見学以外は当日受付あり）

参加申し込み専用フォーム（<http://goo.gl/forms/zdlmEaegaj>）から申し込みください。

お 問 い 合 わ せ

事務局：摂南大学薬学教育学研究室（大阪府枚方市長尾峠町 45-1）安原 智久（事務局代表）

yasuhara@pharm.setsunan.ac.jp

参加費（当日収集）：6 日（金）1,000 円（昼食代）、7 日（土）5,000 円

プログラム

1 日目は能動型学習である Team-based learning (TBL) を実践的に学ぶプログラムです。実際の TBL を導入した授業の参観見学、TBL を用いて TBL の手法を学ぶ Workshop、TBL の実践に関する講演を予定しております。

2 日目は、研究手法としてのアンケート作成と多変量解析を実践的に学ぶ Workshop と、臨床での患者・当事者に寄り添った研究手法である質的分析を学ぶ講演を予定しております。

第 1 日：Workshop「Team-based Learning で TBL を学ぶ」（於：摂南大学 薬学部） ※午後からの参加も可能です

09:20 TBL 見学セッション 1（定員 15 名・事前申し込み制）

10:50 TBL 見学セッション 2（定員 15 名・事前申し込み制）

12:30 昼食（フリーディスカッション）

13:30 Workshop：Team-based Learning で TBL を学ぶ

15:45 講演「TBL とはどのような教育手法か」

16:45 講演「TBL の実践例」

第 2 日：シンポジウム・Workshop「薬学教育学をはじめる」（於：京都薬科大学）

09:00 基調講演「薬学教育学の確立を目指して」中村 明弘（昭和大学 薬学部）

10:00 Workshop「教育・臨床研究を志向したアンケート作成」松野 純男（近畿大学 薬学部）

13:30 講演「質的分析入門：患者・当事者の声と向かい合う研究へー内容分析とグラウンデッド・セオリー・アプローチ」落合 亮太（横浜市立大学 医学部 看護学科）

15:00 「多変量解析シンポジウム」松野 純男 先生（近畿大学 薬学部）

17:00 閉会

患者・当事者の声と向かい合う研究へー

質的分析入門：内容分析とグラウンデッド・セオリー・アプローチ

落合 亮太（横浜市立大学 医学部 看護学科）

医療を患者・当事者の語りから捉える Narrative Based Medicine (NBM) という概念の普及に伴い、面接や自由記述により対象者の声を拾い上げる手法である質的研究への注目が高まっている。質的研究には様々な方法論があるが、代表的なものに内容分析とグラウンデッド・セオリー・アプローチがある。内容分析とグラウンデッド・セオリー・アプローチの特徴は「数え上げ」と「場合分け」と言える。面接調査を例にとると、内容分析では複数の対象者の類似した発言をまとめ、同様の発言をした人の数を「数え上げ」る。これにより、対象集団においてどのような意見をもつ人が多いかを知ることができる。数え上げはアンケート調査の得意分野だが、調査前に妥当性の高い項目を挙げることは時に困難である。内容分析は、今後のアンケート調査に向けて項目収集をしたい場合や、内容分析の結果単体である程度アンケートに近い結果を得たい場合に向いている。一方、グラウンデッド・セオリー・アプローチは、「こういう人はこういう考え方をする」「こういう経験をした人はこういう感じ方をする」という「場合分け」を適切に行い、現象を読み解くための「理論」を提供する手法である。ただし、この「場合分け」は、ともすれば研究者の決めつけの域を出ない。実際、研究の初期段階で研究者が着想した理論は、限りなく決めつけに近い「仮説」である。グラウンデッド・セオリー・アプローチでは継続比較分析により、この仮説をデータに根ざした理論（グラウンデッド・セオリー）になるよう鍛え上げる。2つの研究手法の比較を通して、患者・当事者の声と向かい合う質的研究の基礎をご理解いただければ幸いである。

多変量解析を用いたアンケートの分析

松野 純男（近畿大学 薬学部）

教育・臨床効果を客観的に評価する上で、アンケートの利用及びその解析を行うことは重要である。しかしながら、その解析は単純集計で終わっていて、有効に活用できていない場合が多い。多変量解析はアンケートのような多項目の指標を「点」ではなく「線」「面」で捉え、項目ごとの関連性をあぶり出す手法である。これにより、質問をグループ化したり、回答者がどのような特徴を持っているのかを詳しく分析することが可能となる。

今回は、午前中に作成・調査したアンケートを用いて (1) 因子分析による質問のグループ化 (2) クラスター分析を用いた回答者の分類 (3) 自己組織化マップ (SOM) や多因子分析 (Multiple Factor Analysis) を応用した詳細解析などを行い、回答者（実際の場面では学生や患者）が教育実践について何を考え、なにを求めているかをあぶり出すことを試みる。さらに、このような多変量解析を効率的に行うための、より効果的なアンケートの作成方法についても解説する。

参加申し込み

参加申し込み専用フォーム (<http://goo.gl/forms/zdlmEaegaj>) から申し込みください。事前申し込みの締め切りは 10 月 20 日とさせていただきますが、見学を除くセッションは当日受付も行います。また、6 日（金）は昼食（お弁当）代として 1,000 円を、7 日（土）は参加費として 5,000 円を、当日収集させていただきます。

ご質問・お問い合わせは下記までお願いします。

事務局：摂南大学薬学教育学研究室（大阪府枚方市長尾峠町 45-1）安原 智久（事務局代表）

yasuhara@pharm.setsunan.ac.jp